

### 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0171400765		
法人名	医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね 1		
所在地	北海道函館市日吉町4丁目7番81号		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400765-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400765-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成27年3月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人様がこれまで行ってこられた事が継続できるように、お手伝いさせていただいている。</li> <li>・穏やかな生活の中にも役割や生きがいを感じて頂けるように、職員一同心がけている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当事業所は市内東部、高台に広がる住宅地の奥に立地している。周囲前方はサッカーやテニスの屋外競技場で、裏手は雑木林となっており、自然豊かな環境の中に建っている。同一敷地内には当事業所の他に、別の法人のケアハウス、その奥には、事業所と同法人の老人保健施設が並んでおり、三つの施設は相互に行事や防災などで協力関係を結んでいる。当事業所は鉄筋の平屋建てで、玄関と事務室を中心に左右に1ユニットずつの構造になっている。母体法人は老人医療を専門とする医療法人で、長年の認知症に対する知識の蓄積を在宅で活かすため、平成14年に当事業所を設立し、経験と実績を積み上げて今日に至っている。この事業所の優れている点は、認知症の方の介護について、徹底した個別支援の立場に立っていることが挙げられる。例えば、介護計画は個別の介護目標達成のために職員全員で共有化し、日々目標に沿った支援内容と達成度を把握し、日誌に記録している。このことは目標を持った役割のある支援の実践であり、利用者本人への的確なサービス提供にとどまらず、職員の介護意欲を向上させる効果ともなっている。また、医療法人の利点を活用した医療体制が構築されており、往診や夜間受診にも対応し安心できる医療の体制で臨んでいる。入院中の利用者を同系列の老人保健施設から当事業所へ、段階的に受け入れていく役割を担い、適正な介護の分担も進めており、個別ケアへの取り組みとともに今後も期待が持てる事業所である。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の揭示にて共有し実施している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。	母体法人の理念のほかに、事業所の独自理念を掲げ、三つのケア目標を立てて、より実践に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所のコンビニなどへ利用者さまと散歩しながら買い物へ行っている。毎年小学校へエコキャップを届けている。	地域的に周囲との繋がりが少ない地区にあるが、積極的に交流を続けている。エコキャップの取り組みを地区小学校と行い、また敷地内3施設でのイベントに地区住民を招くなど、地域での連携を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近所の保育園より歌や踊りの発表の場として当施設にきて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さまの生活を報告し、行政機関や家族との情報交換を行っている。	地域代表や家族、地域包括支援センターなどの構成により、定期的に運営推進会議を開催している。開催案内や終了後の議事録は委員のみならず全利用者宅に送付し、報告、議論された内容を開示し、サービスの向上に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	日頃から各種相談について、市の担当者から指導を受けている。窓口に出向いて情報交換をしたり、ケースワーカーの来所時に毎日の生活ぶりを伝えたりし、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さま本位のケアを実施している為、拘束を行う要素はない。	月に1度の勉強会で、拘束や抑制の弊害を話し合い、具体的な事例をもとに意見交換している。職員同士で注意しあい、拘束も抑制もないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族および職員間で情報交換を行うことで虐待や虐待と思われる介護をしないことを心がけている。また、教育委員会で勉強会を開催したり、研修へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務の担う職員を窓口とし相談があった場合は支援している。また、研修への参加。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議を利用している。また、ご家族さま面会時にご要望がないかお聞きしている。	家族の来所時や行事の際に意見や要望を寄せてもらい、サービス向上に役立っている。	事業所が行っている日々のサービスについて、より積極的な姿勢で評価を受けるために、アンケートの実施など家族が意見を言いやすい手段を検討するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用している。また、アンケートや個人面談等も行うようにしている。	月に1度のミーティングや毎日の申し送りで、職員の意見を聞き取っている。またアンケートの実施や個人面談も含め、提案しやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めアドバイスし、職場環境の改善も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと合同の勉強会を行っている。(道南グループホーム協会Bブロック会議)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行う。会話や動作で困っている事がないか検討し解決し安心な関係作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴き待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作り等在宅に居る時と同じような生活場面を作り同居者のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人と家族、職員が一緒に会話できる環境を作り関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連携を密にとり、家族と外泊や外出した際に馴染みの場所や馴染みのある方と交流などを図っている。	友人や知人が訪れるケースもあり、ゆっくりと談笑できるように努めている。家族と協力して、馴染みの店との関係が途切れないよう努めるとともに、見慣れた風景を見に行くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて、レクリエーションや調理補助などを皆さままで行って頂きリビングで過ごす時間を多くとり利用者さま同士が関わりあえる環境を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況報告を電話で行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。	日々本人の生活に添った支援をしていく中から、思いや望み、嫌なこと嬉しいことを把握し、職員間で共有しながら、本人本位になるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行いモニタリングし、本人に合ったニーズ目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状にあった計画を作成するよう努めている。	介護計画は本人、家族の意向や担当職員の提案を取り入れて作成し、その目標に基づいて日々支援を行っている。介護目標への進捗度は毎日必ず日誌に記載し、チームとしてモニタリングをしながら支援に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りやミーティング、各種委員会活動を通し情報の提供に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な社会資源を利用し、サービス提供は臨機応変に行うよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レク等を通じ社会性が衰えないようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、定期的な往診・受診を通じ情報交換を行っている。	母体法人が医療機関であるため、かかりつけ医が協力医であるケースが多い。往診も2週間に1度行われ、夜間帯の受診も可能で、安心できる医療体制で臨んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職へ報告し、判断を仰ぎながら受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族との情報交換、病院からの病状報告を受けながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状について、家族と共有する際に施設として支援している。	契約時に事業所の重度化の指針を説明し同意を得ている。看取りについては職員研修を随時行い、本人や家族の希望があれば受け入れる態勢で臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り協力体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)	隣接する3事業所合同で消防署の指導による避難訓練を行っている。また、市内の同業者とは緊急の協力体制を整えている。事業所内に備蓄品と自家発電を用意し、不測の事態に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。	毎日の支援をしていくうえで、一人ひとりの個性を尊び、プライバシーを守り、誇りを損なわないよう、ケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱くことを基本としている。今、何を望んでいるのか利用者の思いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事や外食時、化粧や着ていく服を選んだりお手伝いをさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、食べたい物の要望などを聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	利用者も介護者も、同じ食卓で同じ料理と一緒に楽しむことを大切にしており、食材洗いからテーブル拭きまで、その人にあった手伝いをお願いし、みんなで参加する食事に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量など記録している。利用者の嚥下状態に合わせ食事形態の工夫や食べやすい物へ変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を定期的に促している。また、排泄チェック表を利用しての排泄パターンの把握や、声のかけ方、タイミングを工夫している。	トイレでの排泄を目指しており、定期的な時間でのトイレ誘導を行っている。また、一人ひとりの排泄サインを見逃さず、自然な排泄になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品などの提供や体操を行って頂き、予防に努めている。また、温電法やマッサージなども提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に即した入浴を心がけている。	入浴は週2回以上を目安にして取り組んでおり、拒否者には無理強いすることなく、工夫して楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに、休めるよう心懸けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示及び看護職員の指導で服薬の知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人ご家族から昔楽しかった出来事や催し物の内容を会話の中から情報収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけることや、外食の機会を作ることで外出支援を行っている。	事業所の周辺は豊かな自然が残っており、格好の散歩コースとなっている。また季節により、花見やもみじ狩りを楽しむ遠出の行事を企画し実行しており、閉じこもらない支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により行っている。床屋の支払い等。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など本人、家族の希望などで行っている。月1回の広報誌などでも近況を報告している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓により衛生的な環境作りに努めている。また、季節ごとに飾り付けを行い季節感を実感できるように努めている。	左右両棟とも居間や食堂は日当たりも良く、明るい開放的な空間となっている。温度や湿度の管理も行き届き、快適に過ごせるよう配慮がなされている。また季節を感じる飾りつけも工夫されており、心が休まる雰囲気となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着している物を持ち込んでもらうようにしている。	居室には馴染みの家財や椅子などが持ち込まれており、家族の写真などの小物類も飾られて、居心地の良い部屋となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うよう努めている。		